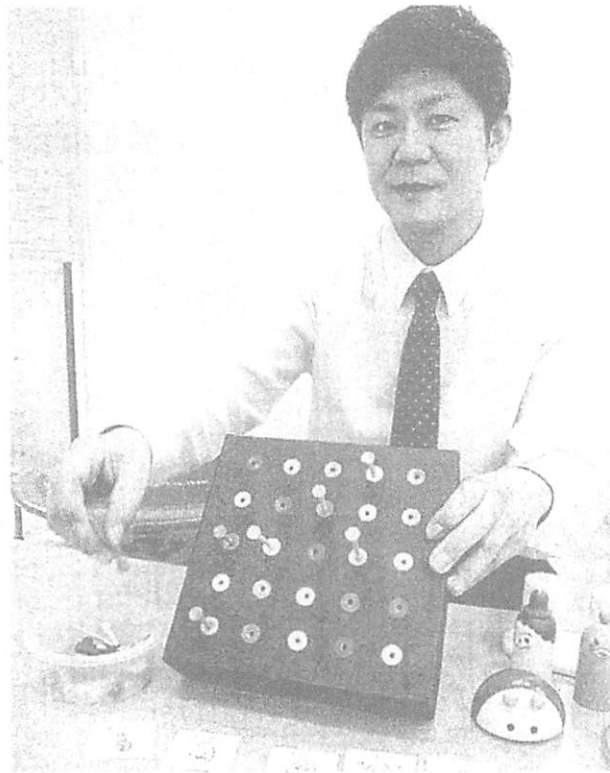


大歳 太郎さん(37) 西宮市



近年増えている発達障害児。現在は、NPO法に遅れがある子どもを支援しようと、今年1月にNPO法人を立ち上げた。特に、症状が軽かったり、知的レベルが高くない「グレーゾーン」の子どもの対象としている。

作業療法士として、市内の肢体不自由児の施設で働いた経験がある。

現在は、NPO法人を運営すると同時に、関西福祉科学大学の教授として教壇に立ち上げた。特に、症状が軽かったり、知的レベルが高くない「グレーゾーン」の子どもの対象としている。

「子どもが安心して遊ぶことを通じて、機能訓練をする。子どもには、オリジナル遊具で遊ぶことを通じて、機能訓練をする。」

「子どもが安心して遊ぶことを通じて、機能訓練をする。」

「子ども自身能力を伸ばし、社会生活に適応する手助けができれば」

発達障害児に居場所を

「子どもが安心して遊ぶことを通じて、機能訓練をする。」

「子ども自身能力を伸ばし、社会生活に適応する手助けができれば」

「子どもが安心して遊ぶことを通じて、機能訓練をする。」

「子ども自身能力を伸ばし、社会生活に適応する手助けができれば」

「子どもが安心して遊ぶことを通じて、機能訓練をする。」

「子ども自身能力を伸ばし、社会生活に適応する手助けができれば」

「子どもが安心して遊ぶことを通じて、機能訓練をする。」

「子ども自身能力を伸ばし、社会生活に適応する手助けができれば」

「子どもが安心して遊ぶことを通じて、機能訓練をする。」

「子ども自身能力を伸ばし、社会生活に適応する手助けができれば」

【大沢瑞季】